



出張報告書

令和 7 年 9 月 11 日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 福島 さとり

出張者氏名 土岐 玄二 蛸子 房一 東浦 小起
真鍋 修司 藤野 祐利 田中 俊幸

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和7年8月25日から令和7年8月27日まで

2 結果の概要

用務先	報告事項 (この欄には要点を簡条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1. 教育民泊 'かんもーれ! たつごう教育民泊' について 2. 宇検村における親子山村留学について 3. 海の子留学 (与路小・中学校留学里親留学制度) について 4. 子育て支援と高齢者対策 5. 「親子山村留学」について
添付書類 ■出張報告書レポート6部	備 考

3 届出事項の変更等 ☐ な し ☒ あ り (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

☐ 精算額は、令和 年 月 日届け出た額 (円) と同一額である。

☒ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

- 起点→伊丹空港 家族による送迎 (4名)
180円 (JR) + 230円 (バス) = 410円 × 3名 = 1,230円
200円 (JR) + 230円 (バス) = 430円 × 1名 = 430円 小計1,660円
- 東浦議員 (25日)
奄美空港→ウエストコート 途中「ばしゃ山」から龍郷町職員による送迎
奄美空港→ばしゃ山 (しまバス) 360円
ウエストコートまでの1,100円 差額740円
- 27日 ウエストコート→瀬戸内合同庁舎前 大和村職員による送迎
ウエストコート→瀬戸内合同庁舎前 @1,400×6名分 = 8,400円
- 27日 瀬戸内町役場→奄美空港 大和村職員による送迎
大島タクシー 35,000円
- 伊丹空港→着点 家族による送迎 (5名)
230円 (バス) + 180円 (JR) = 410円 × 3名 = 1,230円
230円 (バス) + 200円 (阪急) = 430円
200円 (モノレール) + 240円 (阪急) + 250円 (阪神) = 690円
小計2,350円

合計 1,660 + 740 + 8,400 + 35,000 + 2,350
= 48,150円

支 出 額	541,260円
精 算 額	493,110円
支出 差引 額 <u>戻入</u>	48,150円

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前							
発着地							
後							
前							
経 路							
後							
前							
用務先							
後							
前							
宿泊先							
後							

旅 費 明 細 書

会派名	公 明 党	氏名	真鍋 修司
-----	-------	----	-------

単位:円

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
8月25日	塚口(阪急)	伊丹(阪急)	阪急電車	170		阪急電車
	伊丹	大阪国際空港	バス	230		伊丹市営バス
	伊丹空港	奄美空港	飛行機	31,360		JAL2465便
	奄美空港	龍郷町役場				龍郷町職員による送迎
	龍郷町役場	ウエストコート前				龍郷町職員による送迎
8月26日						大和村職員による送迎
8月27日	ウエストコート前	瀬戸内 合同庁舎前				大和村職員による送迎
	瀬戸内町役場	奄美空港				大和村職員による送迎
	奄美空港	伊丹空港	飛行機	31,360		JAL2468便
	大阪国際空港	伊丹	バス	230		伊丹市営バス
	伊丹(阪急)	塚口(阪急)	阪急電車	170		阪急電車
交通費計				63,520		63,520

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
8月25日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
8月26日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
宿泊費等計		16,000	3,200		19,200

旅費合計				82,720
------	--	--	--	--------

旅費明細書 (第6号様式 付表)

旅 費 明 細 書

会派名	公 明 党	氏名	土 岐 良 二 藤 野 勝 利
-----	-------	----	--------------------

単位:円

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
8月25日	JR尼崎	伊丹				家族による送迎
	伊丹	大阪国際空港				家族による送迎
	伊丹空港	奄美空港	飛行機	31,360		JAL2465便
	奄美空港	龍郷町役場				龍郷町職員による送迎
	龍郷町役場	ウエストコート前				龍郷町職員による送迎
8月26日						大和村職員による送迎
8月27日	ウエストコート前	瀬戸内 合同庁舎前				大和村職員による送迎
	瀬戸内町役場	奄美空港				大和村職員による送迎
	奄美空港	伊丹空港	飛行機	31,360		JAL2468便
	大阪国際空港	伊丹				家族による送迎
	伊丹	JR尼崎				家族による送迎
交通費計				62,720		62,720

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
8月25日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
8月26日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
宿泊費等計		16,000	3,200		19,200

旅費合計	81,920
------	--------

@81,920円 × 2人分 = 163,840円

旅 費 明 細 書

会派名	公 明 党	氏名	田中俊幸
-----	-------	----	------

単位:円

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
8月25日	JR塚口	伊丹				家族による送迎
	伊丹	大阪国際空港				家族による送迎
	伊丹空港	奄美空港	飛行機	31,360		JAL2465便
	奄美空港	龍郷町役場				龍郷町職員による送迎
	龍郷町役場	ウエストコート前				龍郷町職員による送迎
8月26日						大和村職員による送迎
8月27日	ウエストコート前	瀬戸内 合同庁舎前	バス			大和村職員による送迎
	瀬戸内町役場	奄美空港	タクシー			大和村職員による送迎
	奄美空港	伊丹空港	飛行機	31,360		JAL2468便
	大阪国際空港	伊丹	バス			家族による送迎
	伊丹	JR塚口	JR			家族による送迎
交通費計				62,720		62,720

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
8月25日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
8月26日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
宿泊費等計		16,000	3,200		19,200

旅費合計	81,920
------	--------

旅 費 明 細 書

会派名	公 明 党	氏名	蛭子 昭一
-----	-------	----	-------

単位:円

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
8月25日	武庫之荘(阪急)	伊丹(阪急)	阪急電車	200		阪急電車
	伊丹	大阪国際空港	バス	230		伊丹市営バス
	伊丹空港	奄美空港	飛行機	31,360		JAL2465便
	63,150	龍郷町役場				龍郷町職員による送迎
	龍郷町役場	ウエストコート前				龍郷町職員による送迎
8月26日						大和村職員による送迎
8月27日	ウエストコート前	瀬戸内 合同庁舎前				大和村職員による送迎
	瀬戸内町役場	奄美空港				大和村職員による送迎
	奄美空港	伊丹空港	飛行機	31,360		JAL2468便
	大阪国際空港	伊丹				家族による送迎
	伊丹(阪急)	武庫之荘(阪急)				家族による送迎
交通費計				63,150		63,150

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
8月25日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
8月26日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
宿泊費等計		16,000	3,200		19,200
旅費合計					82,350

旅費明細書（第6号様式 付表）

旅 費 明 細 書

会派名	公 明 党	氏名	東浦 小波子
-----	-------	----	--------

単位:円

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
8月25日	立花	伊丹				家族による送迎
	伊丹	大阪国際空港				家族による送迎
	伊丹空港	奄美空港	飛行機	31,360		JAL2469便
	奄美空港	ばしゃ山	バス	360		しまバス ※ばしゃ山からホテルまでは 龍郷町職員による送迎
8月26日						大和村職員による送迎
8月27日	ウエストコート前	瀬戸内 合同庁舎前	バス			大和村職員による送迎
	瀬戸内町役場	奄美空港	タクシー			大和村職員による送迎
	奄美空港	伊丹空港	飛行機	31,360		JAL2468便
	大阪空港	蛸池	モノレール			家族による送迎
	蛸池(阪急)	大阪	阪急電車			家族による送迎
	大阪梅田	出屋敷	阪神電車			家族による送迎
交通費計				63,080		63,080

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
8月25日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
8月26日	鹿児島県奄美市	8,000	1,600		ホテルサンデイズ奄美
宿泊費等計		16,000	3,200		19,200

旅費合計	82,280
------	--------

奄美空港〔しまバス〕 → ばしゃ山〔しまバス〕

2025/08/25(月) 17:15 出発

印刷

17:15発 → 17:28着 総額 360円

所要時間 13分 乗換 0回 CO₂ 769g / 自動車比 18.0% 削減

	経路	乗車位置	運賃	指定席/料金	距離
	○ 奄美空港	[当駅始発]			
17:15-17:28 13分	奄美空港線[ビッグ2・名瀬](こしゅく第1公園行)		360円		
	○ ばしゃ山				

記号の説明

△ ... 前後の時刻表から計算した推定時刻です。

() ... 徒歩/車を使用した場合の時刻です。

2025 年 9 月 1 日

会派視察報告

公明党 真鍋修司

出席者 藤野勝利 田中俊幸 蛭子信一 土岐良二 真鍋修司
(視察年月日) 2025 年 8 月 25 日 (月)

(視察先) 龍郷町 (鹿児島県大島郡)

(視察項目) 教育民泊 “かんも一れ！たつごう教育民泊”

(視察内容) 「ようこそ」という方言の“かんも一れ”を冠しているとお
り、龍郷町の教育民泊は、従来、奄美大島への修学旅行が宿泊をホテルでして
いたものを、「島のありのままの暮らし」を体験してもらうことで、自然との
共生や人とのつながり、地域の文化や歴史に触れてもらう機会を持ってもらう
ことを目的として提供しています。

本事業は本年で 6 年目を迎えますが、もともと導入のきっかけは、令和 2 年
度に民間の龍郷町商工会からの打診があり、教育民泊セミナーが開催された時
に、町長含め行政当局から複数名参加し、町長が施策展開を政治判断したこと
でした。翌年度には施政方針に明記されました。

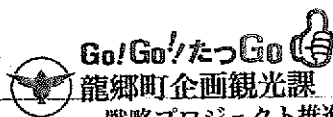
以降、実施学校を増やすための直接セールスと、民泊受入希望家庭を増やす
ための取組みを進めてこられ、2024 年度は、8 学校・団体、317 名を受け入れ
ました。受入希望家庭は 25 軒まで増えています。

今後も、どんどん“龍郷町ファン”を獲得・拡大していく方針とのことでし
た。

こうした取組みを通じて、どのような教育的効果が得られるのか考えると、
尼崎市においては、自然や伝統文化などが少ないことから、そうした環境がた
くさん残されている地域（例えば奄美大島）に寝泊まりしながら、ゆっくり過
ごして様々な体験をすることによって、都会では今まで感じたことのない、多
様な視点や価値観をもって物事を見つめる態度を養えることにあると思いまし
た。ただ単なる旅行ではなく、こうした教育民泊に参加することによって、尼
崎市の子どもたちが、感受性豊かに多様な価値観を持つ大人になれるよう、こ
うした事業等への参加を推進していきたいと思います。

以上

(裏面に名刺印刷)



Go/Go/たっGo
龍郷町企画観光課
戦略プロジェクト推進室

課長兼 勝 元 隆
室長 Katsumoto Takashi

〒894-0192
鹿児島県大島郡龍郷町浦110番地
TEL(0997)62-3111(代表)
TEL(0997)69-4512(直通)
FAX(0997)62-2535
Mail:kikakukanko@town.tatsugo.lg.jp



龍郷町 地域おこし協力隊
観光・教育民泊



川崎 光緑

Miroku Kawasaki



〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦110番地
TEL:0997-69-4512(直通) FAX:0997-62-2535
MAIL:kikakukanko@town.tatsugo.lg.jp



@TATSUGUCHO.OFFICIAL

2025 年 8 月 25 日（月） 14：00～16：00

鹿児島県奄美大島市龍郷町 【教育民泊（かんもーれ！たつごう民泊）】

報告者：蛭子 秀一 蛭子 秀一

代表者：福岡ととり

参加者：公明党尼崎議会議員 計 5 名

真鍋修司

上原良二

藤野裕利

田中俊幸

蛭子 秀一

説明者：武田 泰典 町長、平岡 馨 町議会議員、伊住院 巖 副議長、則 敏光 副町長、

勝元 企画観光課長、藤原 企画観光課主事、川崎 地域おこし協力隊、

川畑 議会事務局長、岡江 議会事務局書記 様 計 9 名

龍郷町概要（令和 7 年 8 月現在）：人口 5,693 人、面積 81.82 km²、財政規模 71 億 1 千万円（令和 7 年度当初予算）、人口密度 69.6 人/km²

① 教育民泊について

・教育旅行で利用される民泊の名称を「教育旅行民泊」として、各家庭に学生が 3～4 人グループで泊り、その地域や家庭の生活、文化等を体験して学ぶ宿泊として位置付けている。

「特別な事をはせず、〈ありのまま〉を見せること」をモットーにしている

② 導入までの経緯

・令和 2 年度（1 年目）：民間（龍郷町商工会）打診があり教育民泊セミナーの開催、町長が施策展開を判断し、令和 3 年度施策方針に明示。

・令和 3 年（2 年目）：住民向けセミナーの継続開催。《龍郷町教育民泊実行委員会設立準備会〔龍郷町役場企画観光課〕》の立ち上げ。設置要綱、事業計画、収支予算の協議。自走出来るまでは町の補助金を原資。この時点で受け入れ希望家庭数は 13 件。【町補助金 962,178 円】

・令和 4 年度（3 年目）：令和 4 年 7 月 2 日《龍郷町教育民泊実行委員会 8〔龍郷町商工観光部会〕》を設立。コロナ過等の影響を受け令和 5 年度受け入れ開始を令和 6 年度開始に修正。この時点で受け入れ希望家庭数 16 件。受け入れ世帯の伸び悩み⇒地域おこし協力隊を募集し事務局体制の強化を図る（令和 5 年 2 月に企画観光課で採用配置）【町補助金 3,000,000 円】

・令和 5 年度（4 年目）：地域おこし協力隊の活動を本格化⇒受け入れ世帯の増、事務局の体制強化。【町補助金 3,000,000 円】

・令和 6 年度（5 年目）：受け入れ家庭の募集・ノウハウ構築、先進地視察、事務局体制の整備を強化。関東・関西圏へ直接セールス。旅館業法に基づいた受け入れ家庭の簡易宿泊営業の許可申請に着手。年間で 8 団体（317 名）の受け入れが決定。受け入れ家庭数 25 件に増加。

組織名を「かんもーれ！たつごう民泊」に改称。実行員会を企画観光課内に設置。各種取り組みを強化・展開をする。【町補助金 2,862,000 円、売り上げ 8,197,607 円】

・令和 7 年度（6 年目）：農業体験の取入れ（地域振興公社と協働）、修学旅行セールスを展開。

【町補助金 3,000,000 円、売り上げ 4,400,000 円】

③ 課題

・1 回あたりの受け入れ最大 80 名程度を想定、1 世帯 3～4 名であれば 20～27 世帯となる為、受け入れ世帯の拡大（30 世帯以上）が最大の課題。

・受け入れの際に持参荷物が多く 送迎車両の大きさが問題。（軽自動車使用が多く車両不足）

・体調不良（感染症等）の対応（緊急時を想定した宿泊施設確保）が必要。

④ 目標（民泊がもたらす効果）

- ・経済効果：民泊による地域への直接収入となる（着地型混交）。
- ・地域交流：観光資源が少ない地域でも地域外からの流入が期待できる。
- ・受け入れ家庭：交流する機会を得る（生きがい・活力）。
- ・地産地消：地元農産物や食べ方の発信で消費拡大に繋がる。
- ・地域への将来性：雇用機会の創出や関係人口及び移住者の創出。

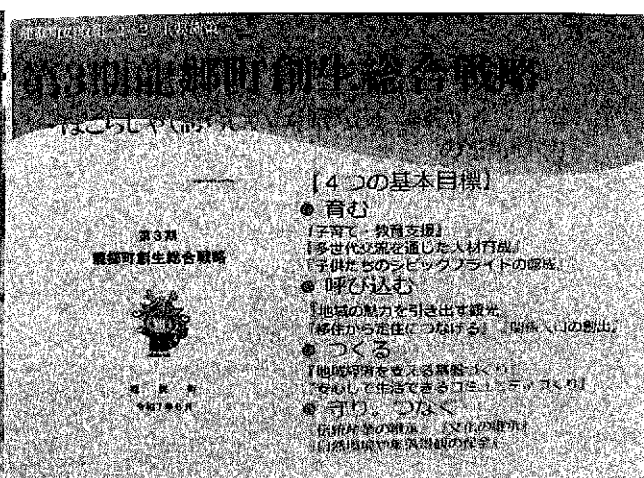
【視察を終えて】

大変興味深い視察となり、視察を受け入れて頂きました龍郷町関係者の皆様に感謝いたします。

なによりも、役所の皆様の温かな人間性と、奉仕する姿勢（おもてなしの心）、多文化を受け入れ共有し命を育む心の大きさに感動いたしました。島人の宝です。

奄美群島振興開発特別措置法（平成6年3月～令和11年3月まで：5年ごとの法延長）に基づき、移住の促進、沖縄との連携を柱に、人の流れを創出して奄美群島の地位特性に応じた産業振興などを展開し、自立的発展に向けた振興開発を目指す取り組みを、国は奄美群島振興交付金の支援をしている。その制度を活用し、課題は多い村運営（学校統廃合、生産人口流出、観光資源・産業の保全など）、人口減少対策、少子高齢化が本土より顕著な現状を村民・企業・各民間団体・自治体が力を合わせて知恵を絞って懸命に取り組んでいる姿勢に身の引き締まった思いで、大変勉強させて頂きました。

尚、本年令和7年度・第3期龍郷町創生総合戦略「ほこらしや（誇らしい、素晴らしい、うれしい）のまちづくり」を別掲（写メ）いたします。



会派視察 レポート

令和7年9月1日（月）

開催日：令和7年8月26日（火） 10時00分～11時30分

場所：宇検村役場（会議室と村長室）

説明者：担当課の職員さん

参加者：宇検村側：喜島孝行議長・吉永常明議員・海原隆家議員・川上真理議員

杉浦治俊議員・保枝力人議会事務局長・辰島月美企画観光課長

尼崎市側：土岐良二 東浦いづ子 真鍋修司 蛸子 〇一
田中俊彦 藤野昭利

※説明前の懇談：元山公知村長・喜島孝行議長

報告者：土岐良二 土岐良二

宇検村における親子山村留学について

宇検村の基本情報

奄美大島南西部の西岸に位置する宇検村は焼内湾の深い入り江を取り囲む14の集落で構成されている人口1685人（2020年6月末時点）の村。豊年祭、シバサシといった伝統行事が大切に受け継がれ、奄美大島の最高峰である湯湾岳山頂からは太平洋と東シナ海に浮かぶ島々が一望できます。宇検村では、2010年より子どもとその保護者で移住する「親子山村留学」を開始しています。留学中の家族へは阿室校区活性化対策委員会が保護者への就業先の紹介や、集落の方々との交流の場を設けるなど地域に溶け込みやすい環境を整えるよう尽力しています。

※就業先の紹介として、真珠やクロマグロの養殖業、黒糖焼酎の製造業などがあります。

親子山村留学の概要

宇検村は2010年から阿室小中学校、11年から名柄小中学校で「親子山村留学事業」を実施しています。対象は村外から移住する小中学生とその保護者で、期間は中学校卒業までです。村は児童生徒1人当たり月30000円の特別助成金を支給し、家賃が15000円以上の場合は、最大月7500円を1年間の期限付きで補助しています。

体験談の紹介（留学生のお母さん）

4人の子どものうち、小学5年の次女と親子留学で宇検村で暮らしておられる。高校1年になる次男は親子留学後、島外の高校に通っておられる。初めて奄美大島を訪れ、宇検村の夜空を見上げた時、見た事のないほどの満天の星が見えた事を覚えている、との事です。

当初、宇検村には知り合いがおらず、買い物にも病院にもすぐ行けず、不便で「帰りたい」と泣いたこともあったようです。また、ご近所同士のお付き合いが「濃密」で戸惑うこともあった、との事です。しかし、奄美大島は、台風をはじめ災害が多く、自然環境が厳しいため、皆で助け合わねば生きていけません。最近では、その濃密さが心地よく安心感がある、との事です。地域一丸となって取組んでいる豊年祭や学校行事へ参加したり、近所の方から野菜や魚のおすそ分けついでに料理の仕方を教えて頂いたりするうちに、自然と地域に溶けこむことが出来たようです。

★子どもの変化

以前は泳げなかった→2キロ泳げるようになった（海での水泳授業）

家にはテレビがない→テレビを見たいと言わない

以前の学校は800名のマンモス校→20名の学校

※保育園から中学生まで皆が兄弟のように過ごし、いじめもありません

少人数のため委員会や部活で様々な役割を引き受けることで成長し、
人間力・生活力が身についたと思います

視察・説明・懇談より

初めは、奄美大島からの留学者だけであったが、インターネットによる募集により全国から留学生が来るようになった。関西からも大阪からの実績がある。

離島留学は、基本的には離島振興（地域の活性化）が大きな目的の一つであるが、様々な取組みへの波及効果がある事が実態として、認識されている。宇検村においても、取り組みの背景には、地域の子どもの減少、さらに、学校の存続の危機、という事情があった。その解決策の1つとして、親子山村留学の受け入れを開始した。そのため、第一の目的は学校存続の危機を解消することである。しかし、取組みをする中で、何か家庭に問題がある子ども、学校に行かない子ども、等が応募してくるケースもある。宇検村には、人を受け入れる優しい村である、という自信がある。初めから、不登校の児童生徒を受け入れ対象としているわけではないが、結果としてそのような子どもが留学されている。公営住宅の問題、就労支援の問題、住居不足の問題、等様々な課題も出てきたが、特に大きな問題は住居不足である。村だけではなく、学校と地域の委員会で協力して取り組んでいる。

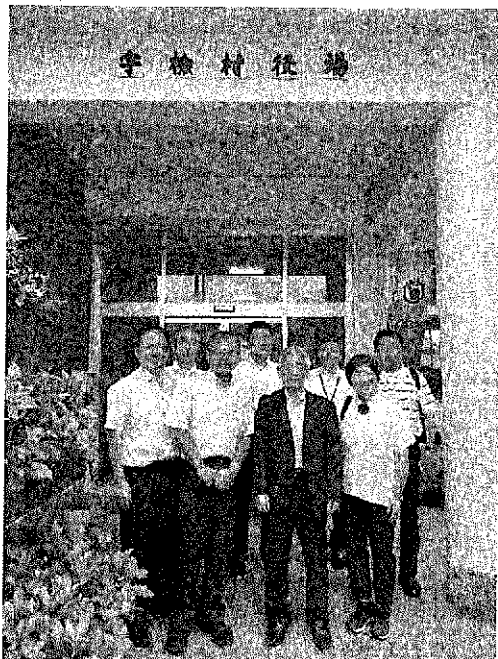
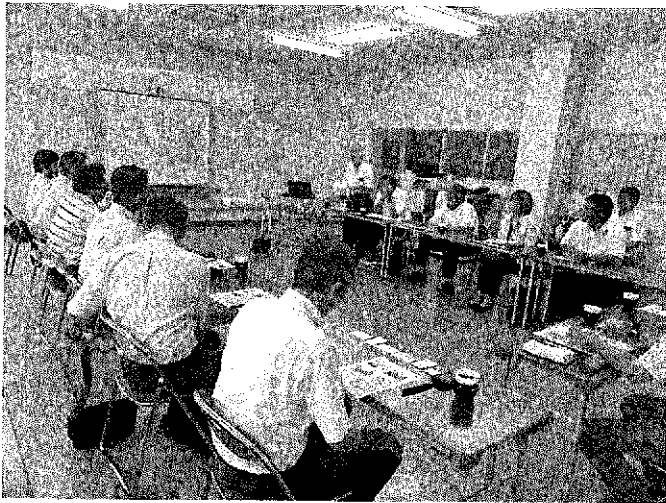
当初の課題→成果

地域の子どもの減少、学校の存続危機→→学校は存続中、子どもの数は維持、（年少人口割合の増加・保護者の定住・留学児童のUターン）

新たな課題

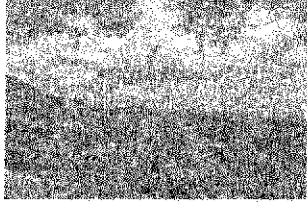
不登校や発達障害への対応、住居不足や地域と保護者間のトラブルへの対応、地元児童家庭との温度差・相性への対応、家庭支援、など。

親子山村留学（お試し移住）が定住へ⇒結果的に『自立持続可能性自治体』に繋がるかもしれない



宇佐村における親子山村留学の 現状と成果・課題

～現状と成果・課題～




本日の内容



1. 本村の現状
2. 親子山村留学について
3. まとめ(成果・課題)

本日の内容



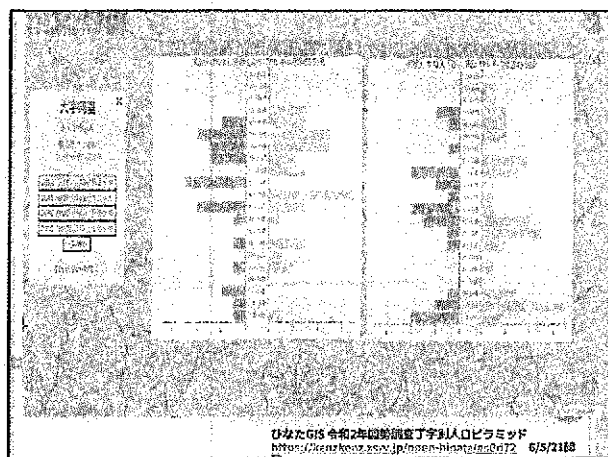
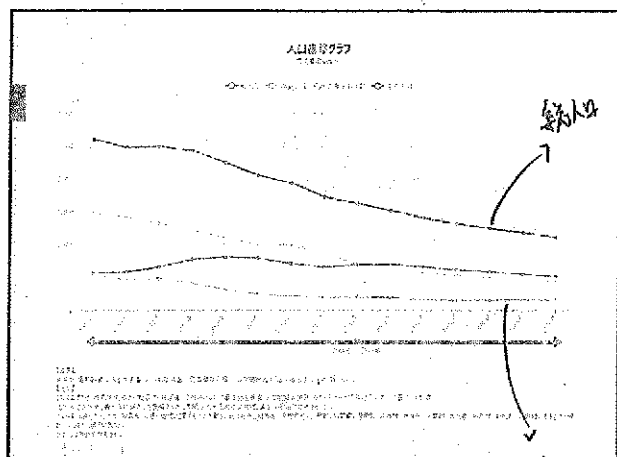
2. 親子山村留学について
3. まとめ(成果・課題)

本村の現状

人口の現状(2020年)

総人口	1,585人	(H2 2,492人)
年少人口 (0～14歳)	184人	(H2 484人) (19.4%)
若年世代人口 (20～39歳)	211人	(H2 241人) (9.6%)
高齢者人口 (65歳以上)	746人	(H2 663人) (26.6%)

H2 国勢調査より



本日の内容

1. 本村の現状
2. まどろ(成果・課題)

【本村における取組背景】
(地域における課題)

少子高齢化が進む中で、

- 地域の子どもの減少
- 学校の存続の危機

【解決策の一つとして】
『親子山村留学』の受入を開始

目的: 児童生徒減少による学校存続の危機を解消すること



阿室 大勢



危機の危機が(重視)

親子山村留学の実施状況

1. 実施年月日	平成22年4月1日(阿室校区)・平成23年4月1日(名新校区)
2. 担当部署	教育委員会事務局
3. 体制	事務局職員(兼任) 1人 阿室校区活性化対策委員会・名新校区活性化対策委員会
4. 問い合わせ件数	(令和5年度) 案件数15件 (令和6年度) 案件数12件(新規1世帯3人) (令和7年度現時点) 案件数4件(休職3件)
5. 留学生受入数(令和7年度現時点)	阿室校区: 小3人・中2人・名新校区: 小4人・中1人 計: 5人(4世帯) 6人(3世帯) 全体: 計10人(7世帯)
6. 家族構成等(内訳)	家族全員 5世帯(1人組2世帯も含む) 祖父母世帯 1世帯(父が県外在住) 祖父母世帯 1世帯 ※保護者が村内出身者3世帯・県内出身者1世帯・県外3世帯
7. 経済的支援等	助成金: 1人につき毎月3万円 家族助成: 家族手帳(1年間のみ)・家族上乗15,000円
8. その他	校区活性化対策委員会に補助金(20万)(実績に応じて)

親子山村留学の予算状況

①助成金	4,011,000円 (1人/30,000円)
内訳	国費: 2,005,500円 県費: 401,100円 村費: 1,604,400円
②補助金	200,000円 各活性化対策委員会(R6は阿室のみ)

※助成金については奄美群島振興交付金を活用している
事業名: 奄美らしい離島留学推進事業(宇検村)

10人+11人
補助金

阿室大勢! → 阿室! 阿室家庭の問題が? 学校に何かの予定が?

本村の親子山村留学の3つの特徴

- ①親子一緒
- ②校区活性化対策委員会の存在
- ③期間限定は対象外
※中学校卒業まで、できるだけ長く住んで頂きたい

【阿室校区活性化対策委員会組織図】

役員 約12名

- PTA会員・準会員(会長も含め)
- 校区の区長・議員
- 校長・教頭

全画班 (班長・副班長・班員) 約9名

山村留学班 (班長・副班長・班員) 約9名

○山村留学に関する全般・体験留学の受け入れや本受入(住居確保も含め方策活動)

○体験活動の計画・実施

人改や
3人1組
いい村
経験者
小学校
や
体験
通った

作業人数=不足
入居可能? → 3世帯に
親子交換? → 阿室(2世帯)
(足跡) 2

☆ 実行-2日間

【名柄校区活性化対策委員会組織図】

役員 約10名程度

OPTA会員・準会員(会長も含め)

○校区の区長・民生委員・議員

○校長・教頭

学校の活性化班
(班長・班員)約7名
○体験活動の計画・指導
○子ども会育成会行事との連携
○留学世帯の世話及び心のケア
○合同イベント活動

校区の活性化班
(班長・班員)約7名
○村や議会への陳情・要望活動
○受入れ施設(空き家改修)の確保方策活動
○校区出身者への校区活性化への啓発活動

留学受け入れ決定までの流れ(本村の標準例)

- 1 相談(電話・メール)
 - ・保護者等の問い合わせ
 - ・基本的情報の提供(家族カード)
- 2 活性化対策委員会に情報の引き継ぎ
- 3 体験留学の受入れ
 - ・学校及び生活体験(宿泊含め)
- 4 3者の合意形成
(希望者・活性化対策委員会・教委)
- 5 親子山村留学の受け入れ決定

山村留学に来る家庭では、選択した理由として

- ・海や山などの自然
- ・体験時の居心地のよさ
- ・子どもが楽しそうに遊ぶ姿を見て
などが繋がった。

既にある地域の資源と、校区活性化対策委員会を中心とした受け入れの体制が「本村」という選択につながっている。

特に二十年前は体験者のほとんどが移住する状態であった。

親子山村留学の実績

■阿室校区(H22～)15年目

受入れ延べ人数 35人(21世帯)
うち、中学校卒業までの在籍数 17人(10世帯)
保護者の定住数

■名柄校区(H23～)14年目

受入れ延べ人数 30人(19世帯)
うち、中学校卒業までの在籍数 10人(10世帯)
保護者の定住数

■合計

受入れ延べ人数 65人(40世帯)
うち、中学校卒業までの在籍数 27人(20世帯)
保護者の定住数

親子山村留学後の定住割合

■阿室校区(H22～)15年目

中学校卒業まで在籍 10世帯
(うち2世帯は兄弟が現在、在籍中)
8世帯中、保護者定住数 3世帯
(うち1人は村出身のUターン者)

*定住割合 38%

■名柄校区(H23～)14年目

中学校卒業までの在籍 10世帯
保護者の定住数 4世帯
(うち1人は村出身のUターン者)

*定住割合 40%

■2校区合わせて 定住割合 38.9%

本日の内容

1. 本村の現状
2. 親子山村留学について

当初の課題

- 地域の子どもの減少
- 学校の存続危機

成果

- 学校は存続中
- 子どもの数は維持
(年少人口割合の増加)
- 保護者の定住
- 留学児童のUターン

阿室校区活性化対策委員会から

- 1 親子山村留学をホームページでPRを行ったことで、初期（2011、12年）は南では選択版が1択の状態が続いた。
→取組みの口コミ等も広がり学校の存続、高齢化率の低下等につながった。
- 2 学校の存続を校区の住民が望み、山村留学生の受け入れをはじめ、協力する体制が築かれている。
→当初は多少の反対意見もありつつ、近年ではほとんど聞かれなくなった。
- 3 留学者の保護者の約半数がUターンやその親が宇検村に暮らしているなど、村に何らかのルーツのある人である。
→山村留学は、Uターン者の取り込みにも有効的だけでなく、制度を有効活用したUターンにも寄与している。
→Uターン者であれば、ある程度集落の風習なども理解しているため定住しやすい。

名柄校区活性化対策委員会から

- 1 Uターン率が高い
→近年の山村留学者は積極的な行事の参加や定着が見られる。
- 2 子どもが高校卒業後に帰郷し、結婚。子どもを出産した留学生も出てきている。
- 3 子どもは就職等内地にいるが、保護者は宇検村に残っている方もいる。
→世代を超えて定着する人が増えていくことで、集落の持続や文化の維持にもつながっていくと考える。

新たな課題

- 1 問い合わせ・相談から
 - ①不登校
 - ②発達特性
- 2 地域活性化対策委員会から
 - ①住居不足
 - ②地域や保護者間のトラブル
- 3 学校から
 - ①地元の児童・家庭との温度差・相性
 - ②家庭支援

今後の取組・対策

- *地域・学校の受け入れに対するサポート体制の強化
- ・多機関との協働連携体制の強化
(定住促進・就労支援・空き家対策等)
- ・専門職等による支援体制の整備

親子山村留学(お試し移住)が→定住へ結果的に『自立持続可能性自治体』につながるかもしれない

ご清聴ありがとうございました

令和7年9月2日

会派視察報告

公明党 藤野 勝利

(藤野勝利)

視察日時：令和7年8月27日（木）13時30分～

視察先：鹿児島県大島郡瀬戸内町役場

瀬戸内町：瀬戸内町議会議長 向野 忍、瀬戸内町議会副議長 柳谷 昌臣、教育委員会総務課
課長 徳田 義孝、教育委員会総務課長補佐 黒田 洋平、議会事務局長 義永 将晃

視察者：尼崎市議会 公明党

真鍋 修司 土岐 貴二 蛭子 芳一 東浦 敦子 田中 俊幸
藤野 勝利

1、視察内容

海の子留学（与路小・中学校留学里親留学制度）について

(1) 調査目的等

離島、奄美大島にある瀬戸内町も加計呂麻島、請島、与路島と3つの離島を抱えた町であり、離島振興と離島のもつ魅力を留学制度に活用し、離島の学校教育の維持と全国からの留学生の「豊かな心」と「生きる力」を身に着ける体験、学びを提供しており、本市の視点から不登校対策などに活用できないか調査を行った。

(2) 調査事項等

① 子どもだけの”グリーンハウス” “での集団生活について（1部屋1人、5部屋）

- ・ 生活のルールを取り決め守ってもらっている。
（食事や学習時間、洗濯・風呂等、一日の生活スケジュールや家族との連絡方法のルール決め）
- ・ 共有スペースと個室の使用のあり方・・・等

② 自立、社会性の育成について

- ・ グリーンハウスでの集団生活（規則・ルール）
- ・ オンライン等による協働学習（スターリンクによる衛星回線）
- ・ 集合学習・合同修学旅行等の実施（請島・加計呂麻島地区の学校と連携）
- ・ 地域との連携（島口・島唄伝統芸能大会に向けての世代交流、地域行事への参加等）
- ・ 放課後や休日に子どもたち（と先生）は学校グラウンドでスポーツや遊び

③ 都市部の子どもに対する自然教育・離島文化の体験について

- ・ 与路（奄美）でしかできない体験（魚釣り、サガリバナ、サンゴの石垣等の島探索）
- ・ 八月踊り、豊年祭、島日・島限等の文化体験
- ・ 三島交流学習（加計呂麻島・請島・与路島）

④ 年間予算について～（奄振ソフト：6割補助）海の子留学運営事業

- ・ R7年度事業費総額：10,513千円（内訳：里親委託 4,000千円、運営費：3,850千円、環境整備（エアコン）：1,500千円等）
- ・ 補助金：3,720千円（4,000千円×6/10=2,400千円、40千円×11月×5人×6/10=1,320千円）

⑤ これまでの実績と今後の課題について

留学生を毎年 3～5人程度、11年間受け入れ（延べ40人程度）

- ・ 平成 27 年度から令和 5 年でまで 9 年間、(株) ノエビアが「グリーンハウス」で海の子留学（里親制度）を実施
- ・ 令和 6 年度より、(株) ノエビアから「グリーンハウス」の無償貸与を受けて町が継続実施

2、【課題について】

- (1) 養育者にふさわしい里親の選定
- (2) 多感な子どもたちへの対応（里親、学校、地域との連携）
- (3) 里親のサポート体制の構築（地域の熱意と協力、専門家による相談支援体制）
- (4) 地域（集落）存続に向けて～学校を核とした地域づくり～

3、まとめ

全国の離島留学協会に登録を行い、広報活動を行っており、北は北海道から本州まで問い合わせがある。

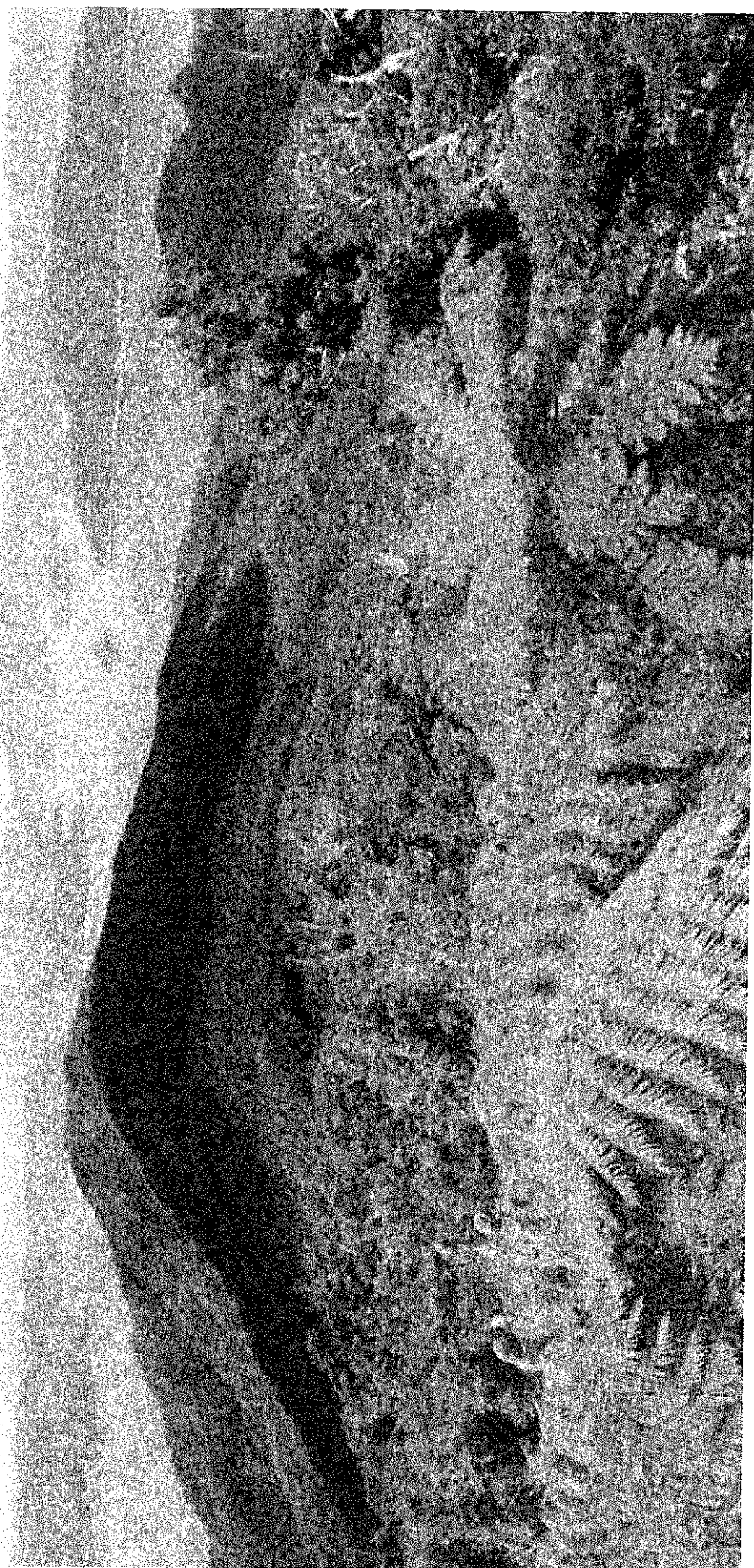
留学される方は、自然に興味を持っているお子さんから、不登校などで環境を変えて生活したいと理由は様々である。定員 5 人と少ないものの確保の維持が課題とのこと。自立持続可能性自治体として学校を核とした離島振興を目指しており、全国から離島留学性を受け入れる必要がある。また、現在、島内のご夫婦が里親をされているが、今後は、里親として登録される方の確保が課題となる。

平成 21 年には、加計呂麻島が「にほんの里 100 選」に、また、次世代に引き継ぎたい島の景観として「与路島のサンゴの石垣」や「諸鈍シバヤ」が『島の宝 100 景』に選定されるなど、島の魅力で離島振興はもちろん、様々な子どもたちの未来の心を開く可能性を秘めており、今後、全国、そして本市からも離島留学を望む子どもたちの環境づくりに取り組んでいきたい。

以上



瀬戸内町の留学制度について



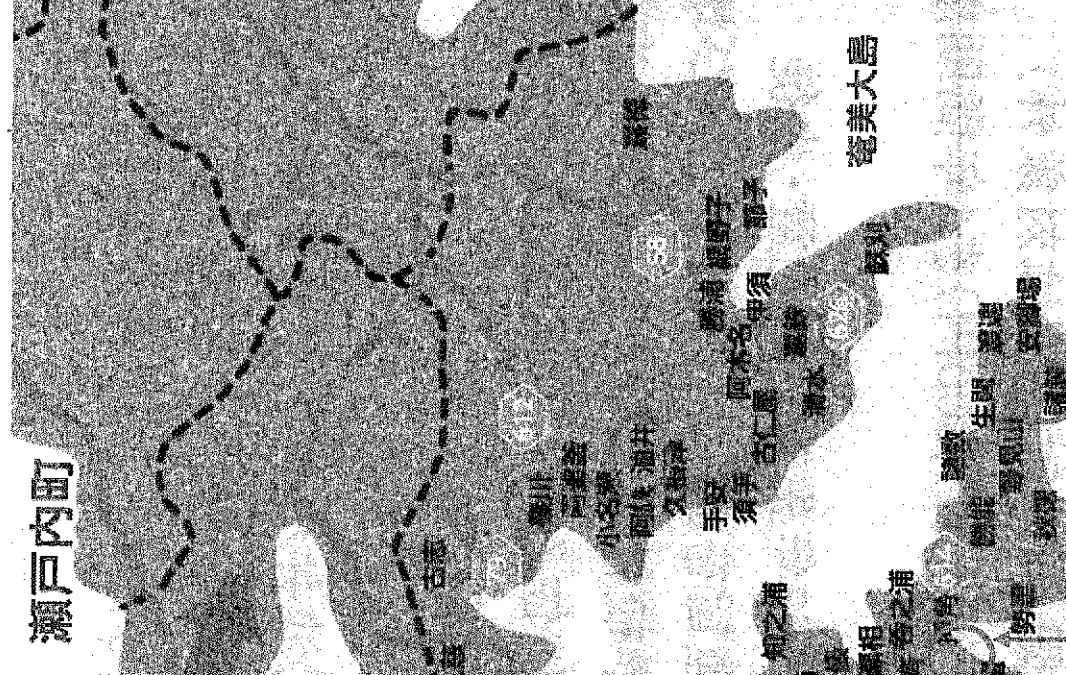
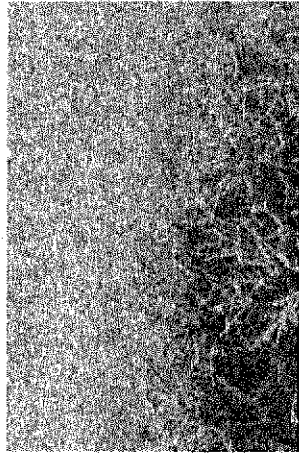
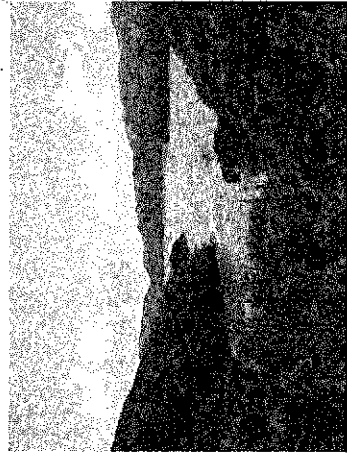
特徴・PRポイント

瀬戸内町は、鹿児島市の南方450km、奄美大島の南西端部と加計呂麻島・請島・与路島からなっています。東に太平洋、西に東シナ海を望み、町域は東西28.8km、南北27.8kmにわたり、総面積239.6km²の広範な区域となっています。

平成21年には加計呂麻島が『にほんの里100選』に、また、次世代に引き継ぎたい島の景観として、「与路島のサンゴの石垣」や「諸鈍シバヤ」が『島の宝100景』に選定されるなど、自然豊かな島として知られています。また、令和3年には、世界自然遺産に登録されるなど、貴重な動植物の生息する島でもあります。

エメラルドグリーンの海と澄み渡った空、そして緑深い山々が連なる自然豊かな南国の島で、地域の人々と一体となった様々な体験をすることにより、自然の恵みに感謝し、「豊かな心」と「生きる力」を身に付け、子ども同士や家族同士の触れ合い、その他様々な交流や体験、学びがあります。





費用負担

・ にほんの里・加計呂麻留学(親子留学)

助成金：児童・生徒1人当たり月額30,000円を中学校卒業まで支給
(留学時に小・中学校在籍に限る(未就学児は対象外))
住宅補助として、家賃の半額(上限11,000円)を1年間助成

条件：小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒

保護者がこの制度の趣旨をよく理解し、学校及び地域の活性化を図るため町内の小中学校校区(古仁屋小学校・古仁屋中学校・阿木名小中学校は除く)に住み、こどもたちの育成のため、学校の教育方針や地域に協力的であること。

学校名(8校)

本 島 側 ①篠川小中学校②油井小中学校③嘉鉄小学校
加計呂麻側 ④伊子茂小中学校⑤諸鈍小中学校⑥西阿室小学校
請 島 ⑦池地小中学校 与路島 ⑧与路小中学校

・海の子留学(合宿型)

助成金：児童・生徒1人当たり負担 月額50,000円

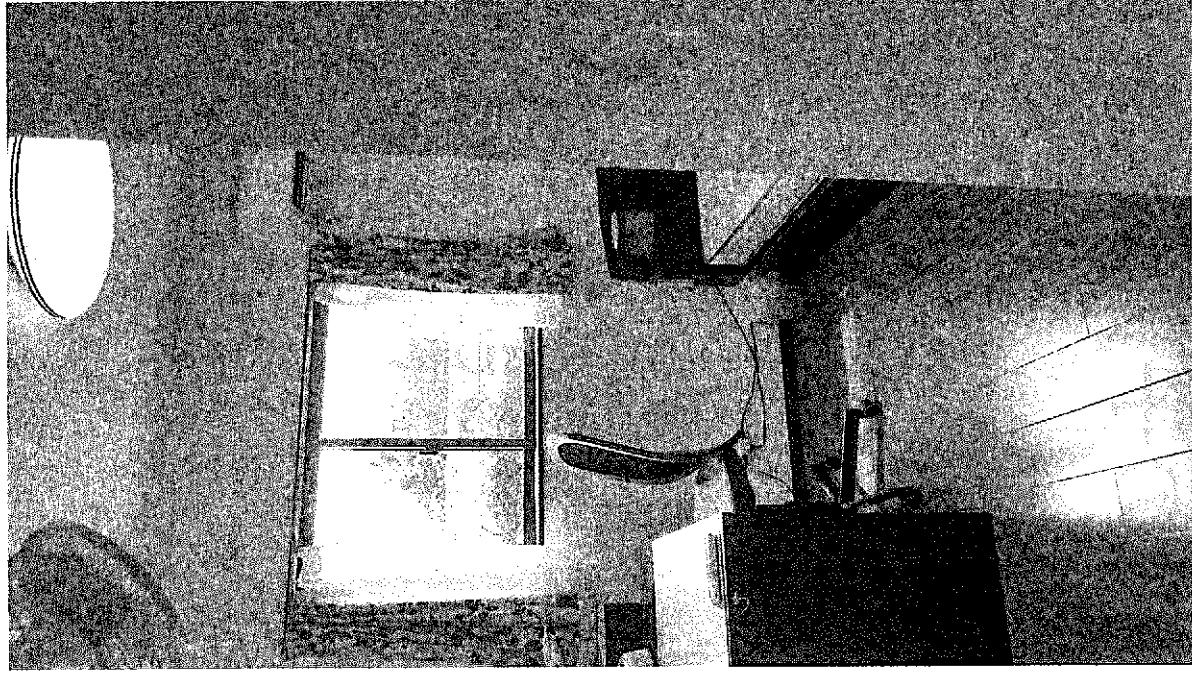
※実親からは、20,000円と教材費等(令和7年度より給食費無料)

条件： 小学校3年生から中学校2年生までの児童・生徒
地域の環境を理解して就学を希望し、且つ保護者の了解
を得ている児童生徒
心身ともに健康で学校集団生活を営むことができる児童生徒

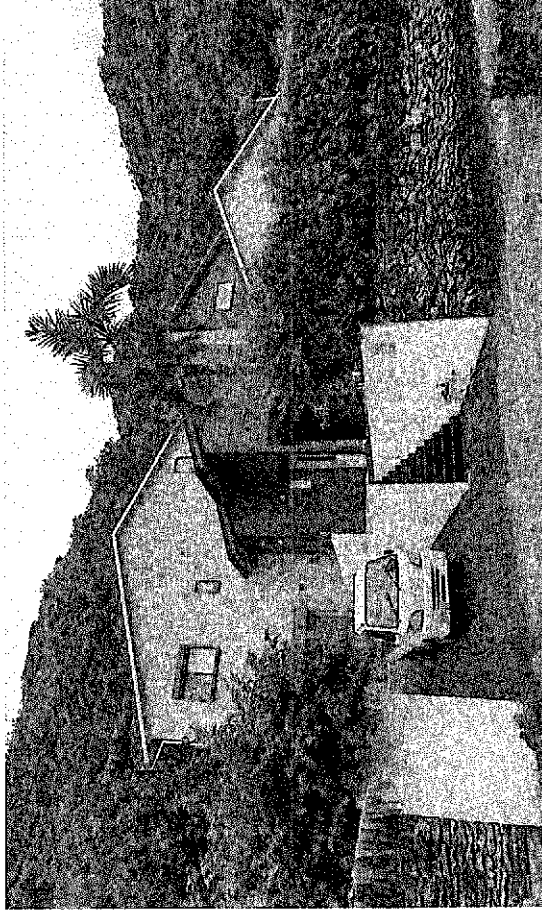
学校名

与路島 与路小中学校

与路グリーンハウス



子ども部屋



外観



リビング

学校規模 ※()内は、留学生 令和7年8月15日現在

- ①篠川小学校 4名(2名) 中学校 6名(0名)
- ②油井小学校 6名(3名) 中学校 3名(1名)
- ③嘉鉄小学校 11名(7名)
- ④伊子茂小学校20名(4名)中学校10名(4名)
- ⑤諸鈍小学校 17名(5名) 中学校 6名(6名)
- ⑥西阿室小学校 4名(2名)
- ⑦池地小学校 休校中 中学校 1名(0名)
- ⑧与路小学校 3名(3名) 中学校 2名(2名)
- 小学校 65名(26名) 中学校 28名(13名)

令和7年8月15日

①受入れ実績

にほんの里加計呂麻島留学制度実績

	小学校名	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
1	麓川小学校	休校	休校	1	1	1	4	5	5	4	5	5	2	1	
2	西阿室小学校	2	0	0	4	3	5	1	2	2	3	2			
3	諸鈍小学校	5	0	1	3	3	3	5	6	5	1	1	1	1	1
4	秋徳小学校	閉校	休校	休校	休校	休校	休校			1	1	1	2	2	2
5	伊子茂小学校	4	4	4	3	1	4	4	2	4	4	2	1	1	
6	池地小学校	0	0	0	1	1									
7	与路小学校	1	1	0	0	0									
8	徳川小	2	2	0	0	3	3	2							
9	油井小	3	2	2	0	0									
10	嘉数小	7	8	9	9	6	6	5							
	計	24	17	17	21	18	25	22	15	16	14	11	6	5	3

延べ人数
190

	中学校名	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
1	儀中学校	閉校	閉校	閉校	休校	休校	休校	休校	休校	2	1	1		1	1
2	諸鈍中学校	6	2	2	1	1	2						2		
3	秋徳中学校	閉校	休校	休校	休校	休校	休校	3	4	5	3	3	1	2	1
4	伊子茂中学校	4	4	10	8	13	8	7	3						
5	与路中学校	0	0	0	0	0	0	0							
6	篠川中	0	0	0	0	1	1	0							
7	油井中	1	0	0	0	0	0	0							
	計	11	6	12	9	15	11	10	7	7	4	4	3	3	2

R6まで
延べ人数
93
延べ人数
283
延べ人数
34

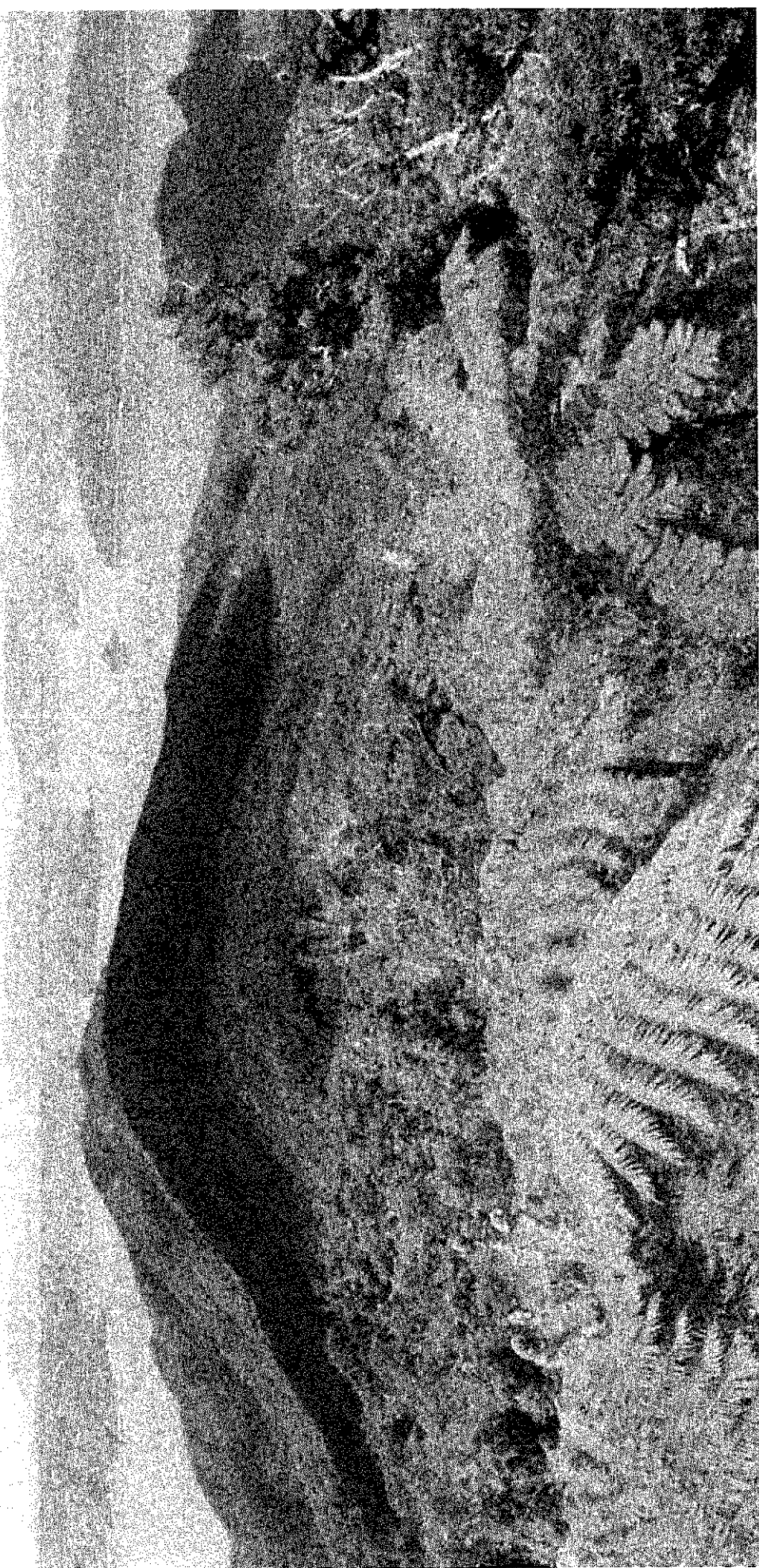
	小・中 合計	35	23	29	30	33	36	32	22	23	18	15	9	8	5
--	--------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---

与路小・中学校留学里親制度実績

	学校名	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27
1	与路小学校	2	3	3	4	3	2	3	3	3	3	2
2	与路中学校	2	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	計	4	5	3	4	3	3	4	3	3	3	3

存続委員会あり

またうがみんしよー



兵庫県尼崎市議会 公明党会派 様

視察研修次第

と き：令和7年8月27日（水）13時30分～15時00分
ところ：瀬戸内町役場4階第2・3委員会室

1. 開会（13：30）

2. 歓迎の挨拶

瀬戸内町議会議長 向野 忍

3. 訪問者のご挨拶

尼崎市議会公明党 東浦 小夜子 様

4. 視察事項の説明・質疑応答

海の子留学(与路小・中 留学里親制度)について

【説明員】

教育委員会総務課課長 徳田 義孝

教育委員会総務課課長補佐 黒田 洋平

【質疑応答】

進行 尼崎市議会公明党 土岐 良二 様

5. 閉会（15：00）

【視察報告書】

2025.9.4

日時：2025年8月26日(火) 14:00~15:30

視察先：鹿児島県 大島郡大和村大和村役場

説明者：保健福祉課 課長 前田逸人 担当課職員他5名

参加者：伊集院幼村長、仲新城長政副村長、蔵 正義長 事務局主幹 太純一、

報告者：東浦小夜子 東浦小夜子

真鍋修司 鈴木芳一 土岐良二 藤野昭花 田中俊幸 東浦小夜子

視察内容：子育て支援と高齢者対策

大和村の概要：人口 1361人(令和7年4月末) 面積 88.26 km²

奄美大島、中西部に位置し東シナ海に面する山岳地帯、亜熱帯海洋性気候で温暖多湿な環境

11ある集落はすべて海に面し、背後には奄美群島最高峰の湯湾岳、奄美岳を控え、豊かな自然に囲まれた伝統文化が残る島内で一番小さい村である。

大和村総合戦略の概要

4つの基本目標

1. 大和村の特徴を活かした働きがいのある就業の場を創出する。
 2. 大和村の魅力を発揮し、新しい人の流れを作る。
 3. 若い世代が安心して結婚、出産、子育てを楽しめる環境を作る。
 4. すべての村民が「主人公」となり、やりがい、生きがいを感じる地域を作る
- 以上の大和村総合戦略に基づき取り組む。

第1期総合戦略策定時(H27年)

大和村人口実測・予測値比較において、(社会保障・人口問題研究所推計人口)

2010年は1765人(実測) → 2060年の推計値は717人

第2期総合戦略策定時(R1年)

2020年は1470人(実測) → 2020年第1期の推計値(1386人)より84人上回っている。

第2期の2060年の推計値は717人から483人とマイナス234人となっている

2025年は1361人(実測) → 1223人(推計値)の比較では推計値を138人上回って

2060年の推計人口571人で令和元年予測値を88人上回っており、人口減少率が緩和されてきている

大和村子育て支援

奄美では「子どもは島の宝」という言葉がある、高齢化が進む大和村において、子供が増えることは大きな喜びであり、集落のみんなで子供の成長を見守る雰囲気がある。大和村では、子育て支援や教育支援では様々な制度を実施している。人口、1361人 高齢者数 591人、高齢化率 43.3%

出生数 R5、(6人) R6、(10人) R7 (12)

合計特殊出生率 (R2~R6平均) 1.686 (全国1.15)となっています。

国の子育て支援はもとより、大和村独自の支援も数多くあります。出産祝い金、(第1子20万、第2子20万、第3子50万円)、育児助成金、子育てサロン、ママパパカフェなど、様々な子育て支援を行っております。その中で、大和村の子育ての強みは、1.一人ひとりの成長が見える

2. 集団だけでなく、個別の支援が丁寧に行える 3. 関係機関と連携を図りやすいことが、功を奏し、0歳から14歳までの人口の増減率が増加に転じている。

高齢者対策

大和村集落長屋構想(総合福祉計画の一部)

住民の願いに近づく住まい方及び、大和の園（老人ホーム）のあり方を、踏まえた観点からの検討、介護福祉はこのままでいいのか、将来構想が必要だ。大和の園の老朽化大規模修繕が必要な時期だ。このような課題を考え、人口減少を考える時、待機者も減少する中50人規模の施設では今後明らかに空きが発生する。この課題を考えた結果大規模施設ではなく、できるだけ家に近く大規模より小規模で家に近い形で、集落で暮らしたい、これまでのあり方、検討会の結果、「全集落にホームホスピス」「ビュートゾルフ」、小さな施設に職員が巡回するなど多数検討し、自宅は無理でも自分の集落でこれまでのように暮らすと言う選択肢を増やす。集落の中に小規模のものを作っていく。今後中長期的に関係者と協議を重ね、資金事業を探しながら住民主体に見える化する10年、想いをカタチにする10年、想いがしくみになる10年とし、地域づくりは定着するまで30年との構想で高齢者福祉に取り組んでおられました。

ポイント事業

平成25年 鹿児島県の事業開始と併せて大和村でも開始

- ・大和村支えあいポイント事業・介護人材確保ポイント事業・ご近所サポーター事業

「感想」

奄美大島において、大和村は最も小さい村であるが、大変に若い職員の皆様の事業に取り組む熱意を感じました。子育て支援においても小規模であるものの、それを強みとして顔の見える支援ができ、それが若年世代の増加につながっている。そしてその後も、地域集落においての高齢者との交流関わりなど充実していくことも目指しています。今年度、尼崎よりAMAフレンドシップ事業で尼崎の中学生が大和村に訪問いたしました。世界自然遺産の奄美群島を訪れたことによって、自然の素晴らしさと合わせて村民の方々の温かいおもてなしに触れ良い経験になったとお聞きしました。また、世代をこえて、高齢者と若い世代の交流に関しても、学ぶところがたくさんありました。本市においても、課題となるところでありますので、今回の学びを参考にして参ります。



【大和村総合戦略の概要】

4つの基本目標

1. 大和村の特徴を活かした働きがいのある就業の場を創出する

「雇用を創出し，若い世代の人口定着率を高める」ために第1期で取り組んだ「やりがい」「働きがい」のある就業の場に「儲かる」を加え，安定した雇用の創出に取り組む。

2. 大和村の魅力を発揮し，新しいひとの流れをつくる

「交流人口」→「関係人口」→「定住人口」への流れの構築を図るため，宿泊数や滞在時間を延ばす仕掛けづくりを官民連携で行い，大和村に触れる機会を増やし，移住・定住の促進に取り組む。

3. 若い世代が安心して結婚・出産・子育てを楽しめる環境をつくる

人口減少問題の本質的な課題解決を図るため，生産年齢世代の男性独身率53%の軽減に努め，婚姻数及び出生率の更なる向上に取り組む。

4. 全ての村民が「主人公」となり，やりがい・生きがいを 感じる地域をつくる

様々な知見を持つ元気な高齢者に安心して「活躍の場」で活動出来ることを目的に安心・安全で安定した生活環境を整え，多様な世代・主体の交流による支援体制を構築し，持続可能な地域社会の形成を図り，全ての世代が幸せに年齢を重ねることが出来る「幸福社会」の実現化に取り組む。

【大和村人口実測・予測値比較】

第1期総合戦略策定時(H27)

2010年
1,765人

2060年
717人

※社会・人口問題
研究所推計人口

△234人

第2期総合戦略策定時(R1時)

2020年(実測値)

1,470人

+84人

2020年(推計値)

1,386人

2060年
483人

2060年の推計値は、717人から483人と△234人となっているが、2020年の実測値と推計値の比較では、推計値を84人上回っている。

【大和村人口実測・予測値比較】

※社会保障・人口問題
研究所推計人口

R7年現在の状況

2025年(実測値)

1,361人

2025年(推計値)

1,223人

+138人

2060年(R1推計値)

483人

2060年(R7推計値)

571人

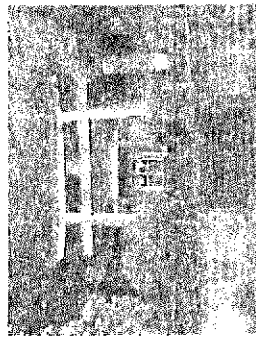
+88人

2025年の実測値と推計値の比較では、推計値を138人上回っているとともに2060年の推計人口でもR1予測値を88人上回っており、人口減少率が緩和されてきている。

大和村集落長屋構想 (総合福祉計画の一部)

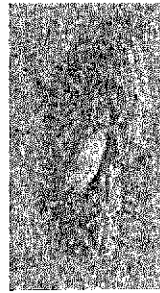
R7年8月時点

2021年登録 世界自然遺産奄美

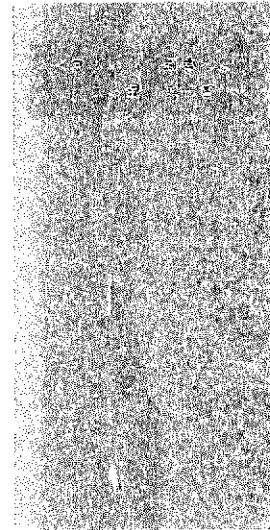


さとつきび発祥の地
「ひらとみ神社」

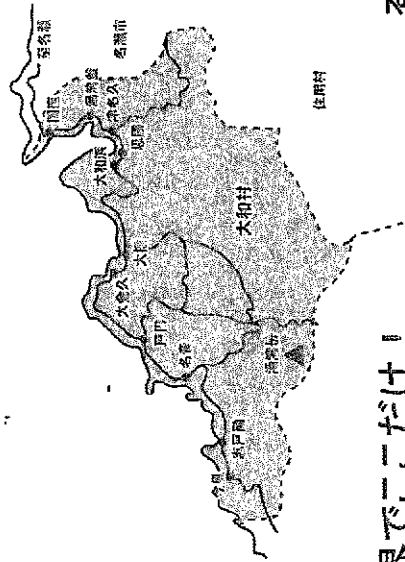
ハブ



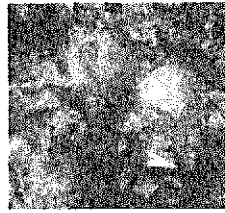
アマミノクロウサギ



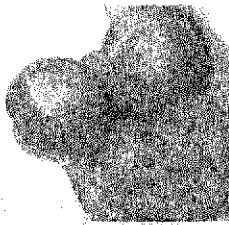
2018年大河ドラマ
「西郷どん」ロケ地-宮古崎



たんかん



「皇室献上」のすもも

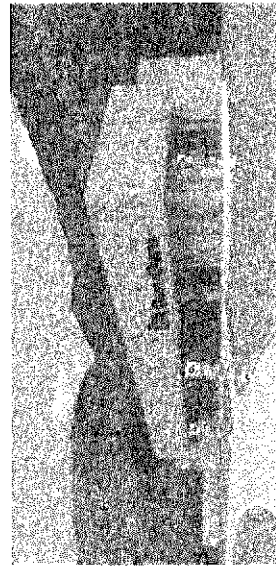


伝統文化



世界でここだけ！

アマミノクロウサギ飼育施設
2025年4月オープン



奄美初天然温泉！

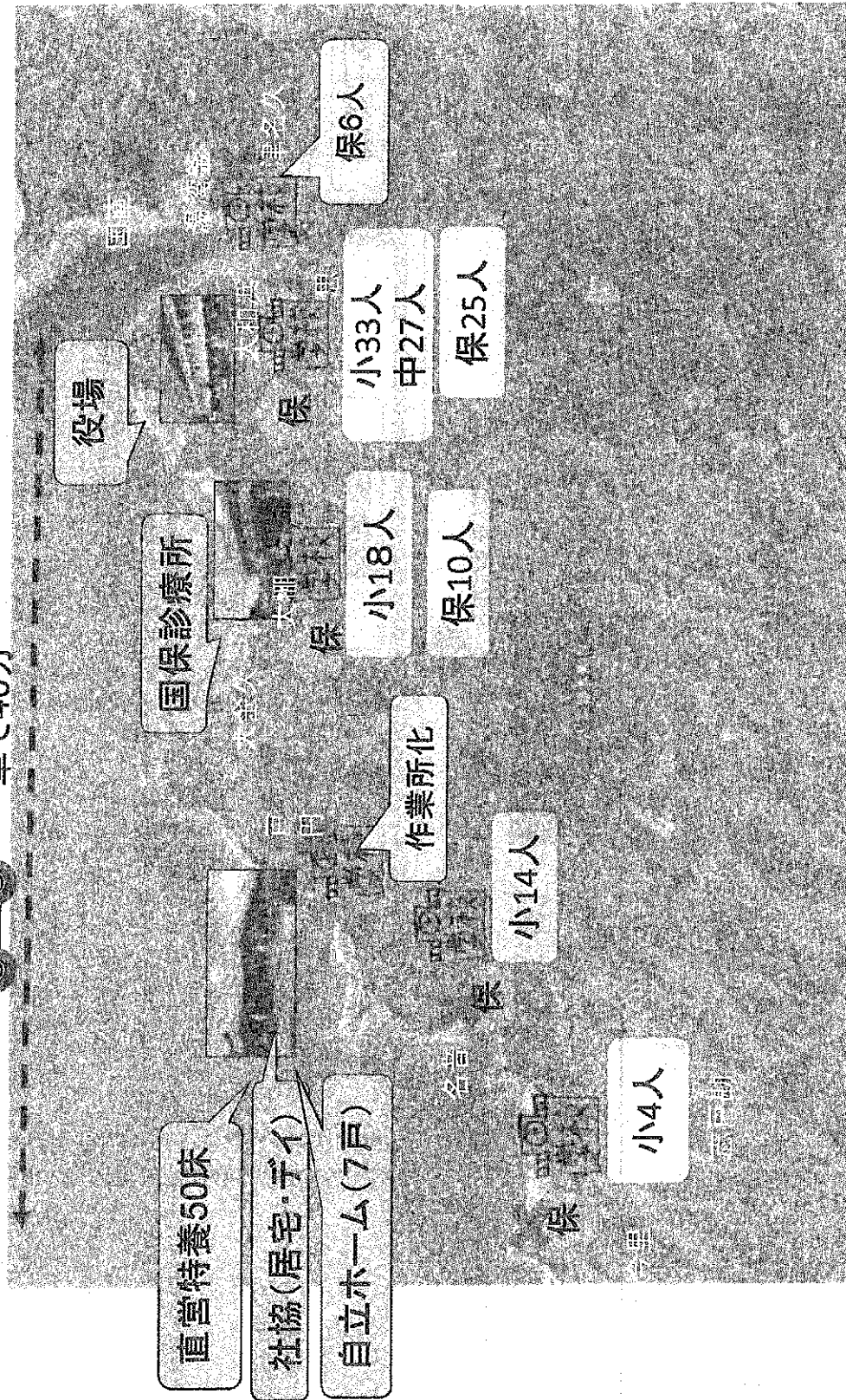
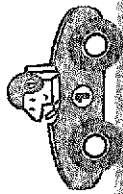
奄美温泉大和ハナハナビーチリゾート
2024年4月オープン



全体

88.26km² (89%山)

車で40分



* R7.5月人口(1362名 前年度△28人) 高齢者数(591名:43.39%) 前年度△12人(+0.19%)

* 圏域1(11集落3世帯~149世帯)

196

～「住民の願いに近づく住まい方及び大和の園のあり方」をふまえた観点からの検討～

①介護福祉はこのままでいいのか？
将来構想が必要だ

②大和の園の老朽化
大規模修繕が必要な時期だ

昭和60年建立
(築40年)

地域ケア会議の1テーマとして
H29～徐々に協議

通常ならそのまま建替
(一番簡単！)
しかしそれでいいのか？

R2～外部有識者参画で
より深い検討

R6イメージは整ったが
土地確保で難航

一番の理由はこれ！
「仕方なく」ではなく「願い」を
かなえる環境を

【方向性の結論】

「できるだけ家に近く大規模より小規模で」その理由は

住民の声

「本当は家がいい。でも迷惑かけられ
ないから仕方なく施設に行く」

人口減少

- ・待機者も減少する中、50人規模施設では今後明らかに空床が発生(他地域でも実例あり)
- ・大規模施設だと用途変更も困難

財政面

- ・小規模化して分散しても総給付費はほぼ同じ
- ・小規模だと修理工代の維持費が抑えられる

防災と空家活用

- ・現在の立地も含め津波や災害から50人を守れない
- ・集落分散の方が助けられる可能性
- ・空家活用にもなる

人生の尊厳

- ・要介護者や障害者を地域から分断しない。地域交流がとぎれないように
- ・自分らしい生き方を。最後をあきらめ
で終わらせない

高齢者等の活躍の場

- ・地域住民の介護参加やボランティアの機会が増え、生きがいにつながる

雇用と介護の質の高まり

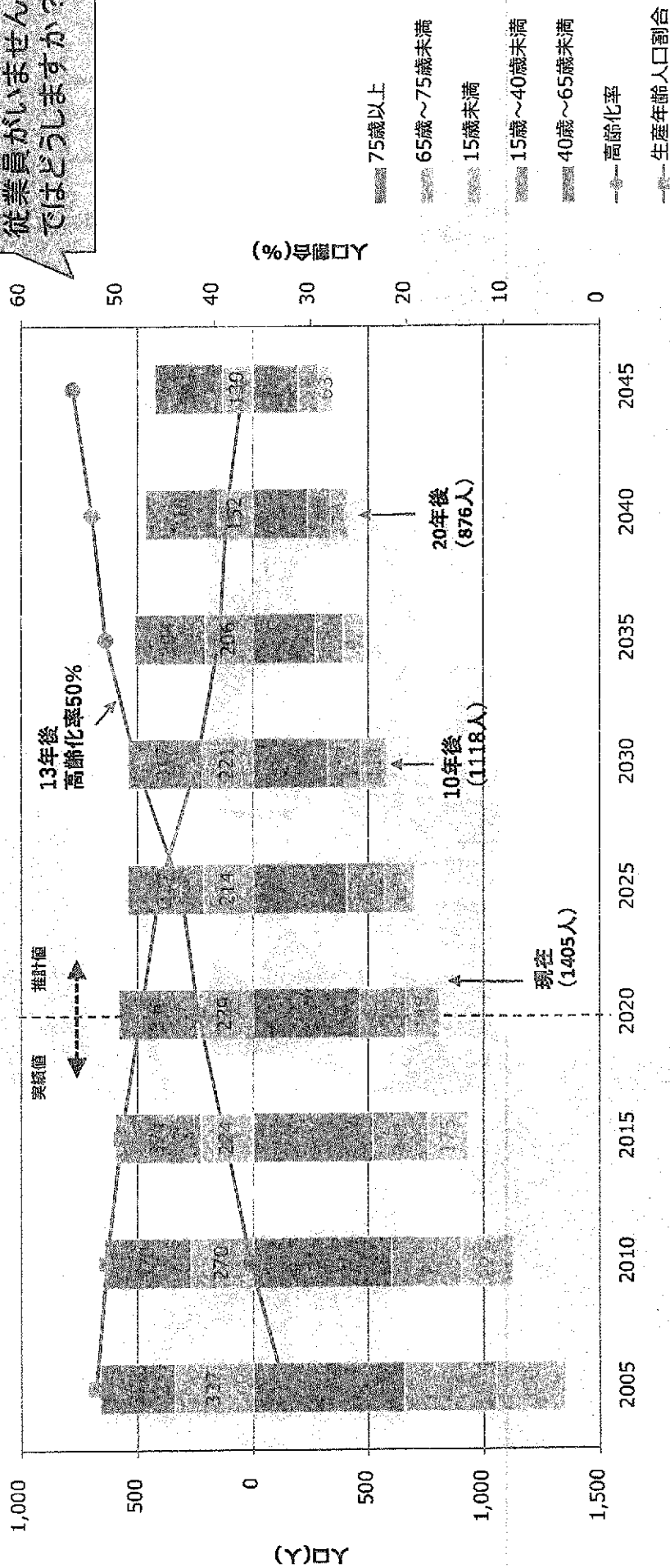
- ・質の高い介護で人材確保。若者や元気高齢者の働く場につながる
- ・専門家任せではない介護のあり方

次世代への生きた教育

- ・施設化、核家族化の中では介護や死を見る機会もない人が急増→自分ごととして考えられることで、思いやり等も育つ。生きた教育の場を身近に

大和村の人口の推移

「介護は施設やヘルパーに頼めばいい」と思っても従業員がいまません。ではどうしますか？

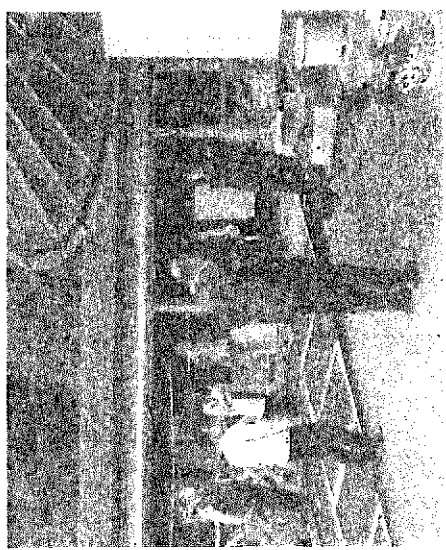
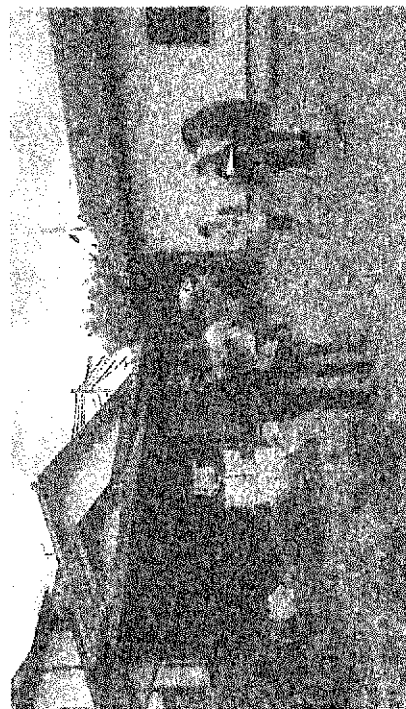


(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」
 2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

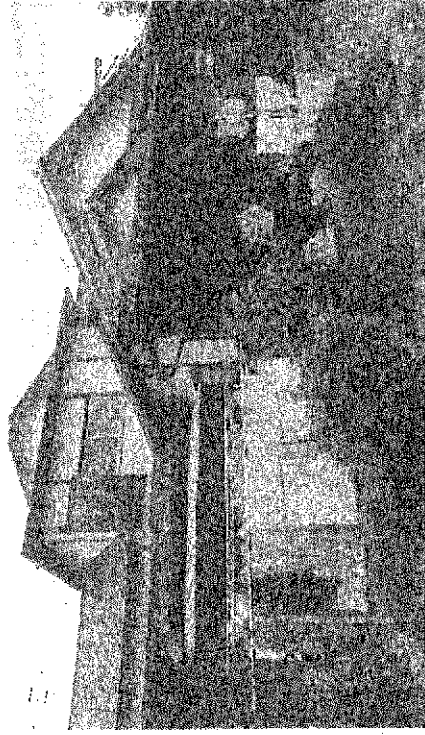


これまでの
あり方検討会の様子

地域ケア会議の延長から、
「介護医療福祉のあり方」を
テーマに



「家に近い形」「集落で暮らせる形」を何とか考えたい・・・



「全集落にホームホスピス」

「ビュートゾルフ」など多数検討してきた
が

(小規模施設いっ
つかい、川原町)
が

利用者自己負担・人員確保・財源の増大などで困難

ではどうするか？

④独居の認知症高齢者等、人口動態の先を見据えた
自治体独自の施策を（集落長屋構想等）

総合福祉計画
の一部

自宅は無理でも 自分の集落で これまでのように暮らす

という選択肢を増やす

集落の中に
小規模のものを

粘り強く中長期的に：関係者と協議を重ね、事業・資金を探しながら

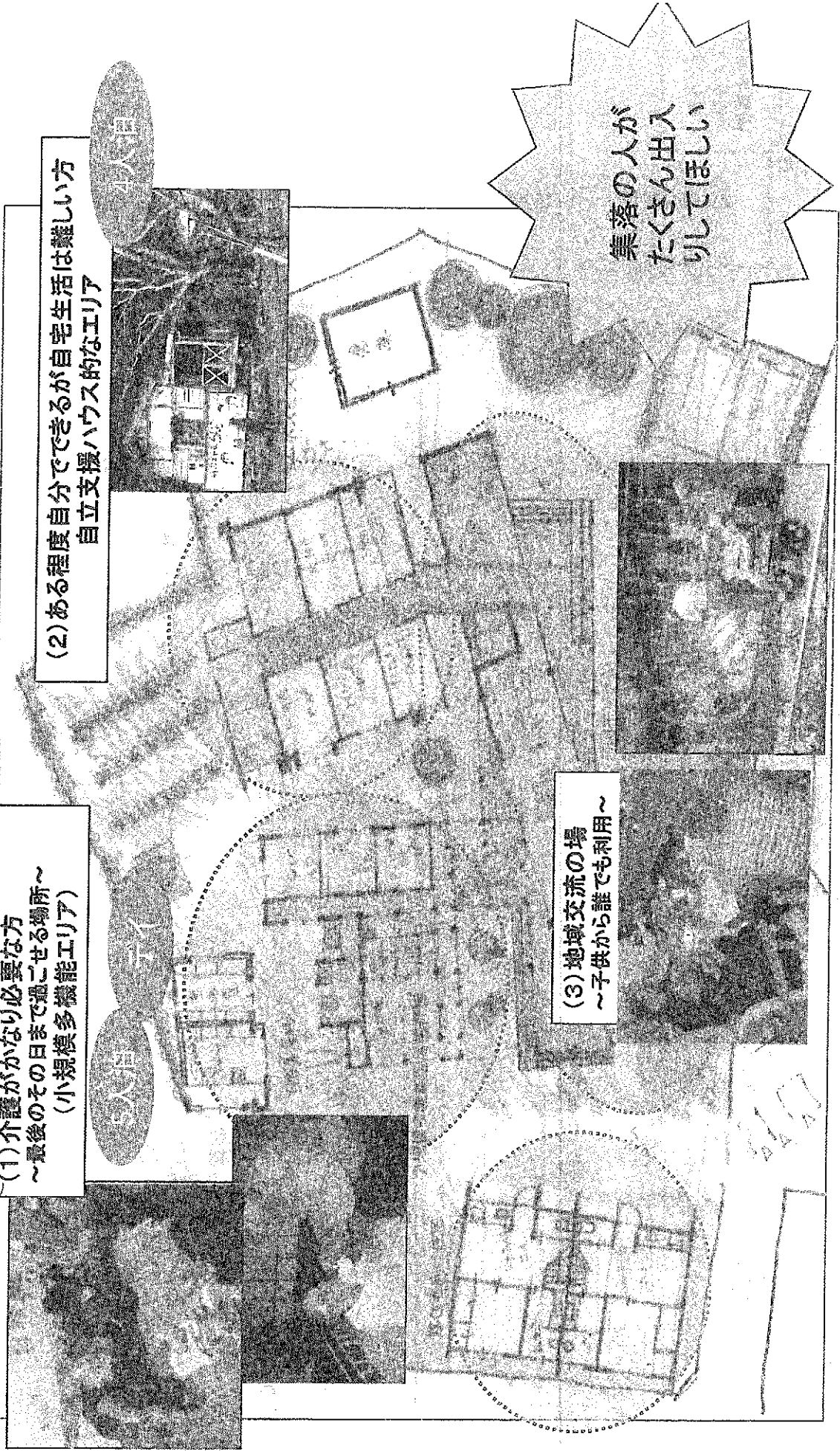
住民主体を見える化する10年～想いを形にする10年～形がしくみになる10年

(1) 介護がかなり必要な方
～最後のその日まで過ごせる場所～
(小規模多機能エリア)

(2) ある程度自分でできるが自宅生活は難しい方
自立支援ハウスのエリア

(3) 地域交流の場
～子供から誰でも利用～

集落の人が
たくさん出入
りしてほしい



○大和村支え合いポイント事業

・事業概要

支え合いポイント事業は65歳以上の高齢者（以下「高齢者」という。）を含む任意の団体（以下「グループ」という。）が行う互助活動、及び高齢者の地域デビュー（新たに社会参加活動に参加すること）に対してポイントを付与し、ポイントを蓄積したグループの申出に基づき、蓄積されたポイントに応じて地域商品券等（以下「商品券等」という。）に交換することにより実施する。

・開始年度（平成30年度） ・令和7年度 予算(746,000円)

・実績額 令和4年度(479,000円) 令和5年度(433,000円) 令和6年度(413,000円)

・今後の課題

各団体によって活動回数等に偏りが見られる。また、各団体に所属する構成員の減少及び高齢化が活動継続の大きな課題となっている。

○介護人材確保ポイント事業

・事業概要

介護ポイント事業は、若者、中年齢層、高齢者層などの各層の者が、高齢者の通いの場、認知症カフェ、介護分野の周辺業務や高齢者の生活支援等へのボランティア活動等を行うことに対してポイントを付与し、蓄積されたポイントに応じて、地域内で利用できるポイント券（以下「ポイント券」という。）として活用することにより実施する。

・開始年度（令和3年度） ・令和7年度 予算(746,000円)

・実績額 令和4年度(168,000円) 令和5年度(225,000円) 令和6年度(229,000円)

・今後の課題

他の事業と同様に、各団体に所属する構成員の減少及び高齢化が活動継続の大きな課題となっている。

○ご近所サポーター事業

事業概要

ご近所サポーター事業は、日常の生活支援を行う者（以下「サポーター」という。）が、日常の生活支援を希望する者（以下「利用者」という。）に対し、近所同士の顔見知りの関係を主として日常生活支援を提供する。利用者は利用料を支払い、サポーターは報酬として地域内で利用できるポイントを付与されることにより実施する。

・開始年度（平成30年） ・令和7年度 予算(746,000円)

・実績

令和4年 17,500円 令和5年 6,500円 令和6年 0円

・今後の課題

利用料を社会福祉協議会へ支払う必要があり、移動手段のない高齢者においては、利用までのハードルが高いため、利用実績が極小となっている。
利用者の利便性等を考慮し、事業スキームの見直しが必要と考えている。

100

100

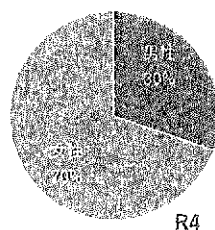
100

100

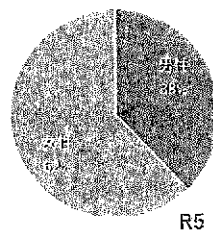
100

64歳以下への健康支援の現状

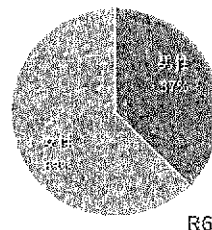
- ・男性の使用率が極めて低い



R4



R5



R6

64歳以下への健康支援の参加の現状

健診(がん・特定・女性)	● 多数参加 ポイント付与も受けている	△ 少数参加 ポイント付与はほぼ受けていない
講習会・研修会	○ 少数参加 ポイント付与も受けている	— ごく少数参加 ポイント付与はほぼ受けていない
ウォーキング大会 運動会	● 多数参加 ポイント付与も受けている	△ 多数参加 ポイント付与はほぼ受けていない
運動教室・公民館講座	○ 少数参加(参加者限定) ポイント付与も受けている	— ごく少数参加 ポイント付与は受けていない
支え合いG活動	— ごく少数参加 ポイント付与はほぼ受けていない	— ごく少数参加 ポイント付与は受けていない
祭・清掃活動	△ 多数参加 ポイント付与はほぼ受けていない	△ 多数参加 ポイント付与はほぼ受けていない

64歳以下への健康支援の課題と対策

地域特性として、集落内・村内の行事が多く老若男女問わず参加者は多い。行事の参加のみではなく練習や準備もポイント付与の対象とし参加の推進に努めているが、適切にポイントが付与されていない。健康増進・地域貢献・介護予防・地域連携(1ターナー者・閉じこもり対策含む)の取り組みへの導入の一助として、本事業は有効であると考えており、以下のとおり対策を検討している。

ポイント付与

- ・ポイント付与者の増員(区長・老人会・支え合いG) → 壮年団・婦人会等も付与者へ
- ・ポイント付与者・村民への周知 → 周知案内文の刷新・村内放送等の活用
- ・ポイント券の提示忘れ → ポイント券のデジタル化

- ・講座等は高齢者・女性向けが多数 → 対象活動の拡充(壮年団・婦人会活動等)見直し
- ・自主活動へのポイント付与 → アプリ(kencom等)の導入にてウォーキング等へ付与

高校以上の進学にも

島内専門学校への通学補助

村内に定住し、奄美郵政福祉専門学校または奄美情報処理専門学校へ通学する方に、通学距離に応じて補助を行います。

(月額B,800円から最大23,700円)

大和村振興基金

奨学資金

村内に引き続き3年以上居住する者の子どもや兄弟姉妹に対し、奨学資金の貸付をおこないます。支給は年2回(4月、10月)で、

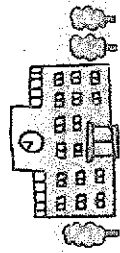
返済は卒業してから半年後で、無利子です。

社会人になっても

奨学資金・入学準備金・返還助成

大和村進学奨学資金・入学準備金を利用した方が返還期間に大和村に住んで、滞りなく返還した場合、その返還分を翌年に助成します。

つまり、奨学金や入学準備金が実質無料に！



高校生の通学補助

大和村には高校がありません。したがって、島内の高校にバス通学をする必要があるため、奄美市名瀬までの

定期券代の全額を助成します。

大和村振興基金

入学準備金

専門学校、短期大学・大学に入学する方に対し、入学準備金の貸付をおこないます。金額は入学金額に応じて変動があり短期大学・大学ともに50万円以内です。

返済は卒業してから半年後で無利子です。

お問い合わせ先

大和村役場 電話 0997-57-2111



大和村のホームページの「福祉・子育て」も合わせてご覧ください

大和村の子連れでお出かけスポット



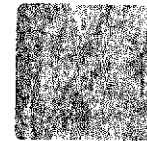
西園ウミガキ公園



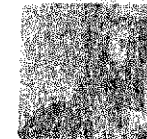
電賀ファレストポリス



アスレチック広場



まほうばあて村公園



猪山公園



奄美府立生物保護センター

子育て するなら 大和村

Yanato Villa
Amami Ohe
Kagoshima

子育て支援の元寮した
自然豊かな村です

奄美大島は、鹿児島本島と沖縄島の間に位置し、亜熱帯気候の自然豊かな島です。

大和村は島の中西部にあり、世界自然遺産エリアとなる自然豊かな山を抱えながらも、桫欏街まで車で30〜50分程という便利な場所にあります。

すべての集落が海に面しており、海産物に恵まれています。さらに、畑や果樹園も多く新鮮な野菜や果物も手に入りやすいという魅力があります。

奄美では「子どもは島の宝」をいう言葉があります。高齢化が進む大和村において、子どもが増えることは大きな喜びです。集落みんなが子供の成長を見守る雰囲気があります。

大和村では、すべての家庭が安心して子育てができ、子どもたちがのびのびと成長していくために、さまざまな支援を行なっています。

妊婦健診助成

妊婦中は定期的に産婦人科を受診し、妊婦さんや赤ちゃんの健康状態を確認します。大和村はこの定期健診を全額助成します。

出産祝金

村内在住の出産した方に進呈！

第1子 20万円
第2子 30万円
第3子 50万円

乳幼児健診

乳幼児健診は、5歳までの子どもに計8回実施し、料金は無料です。

育成助成金

村内定住児童が対象で、給食費に相当する金額として

小学生年額 35,000 円

中学生年額 50,000 円を支給します。

※他の児童を助けていない児童が対象です。

妊産婦・新生児訪問

妊産婦・新生児訪問は、希望に応じて保健師が訪問します。特に新生児訪問は、生後間もない赤ちゃんの育児を相談し、お母さんの子育ての相談ができる良い機会になっています。

育児助成金

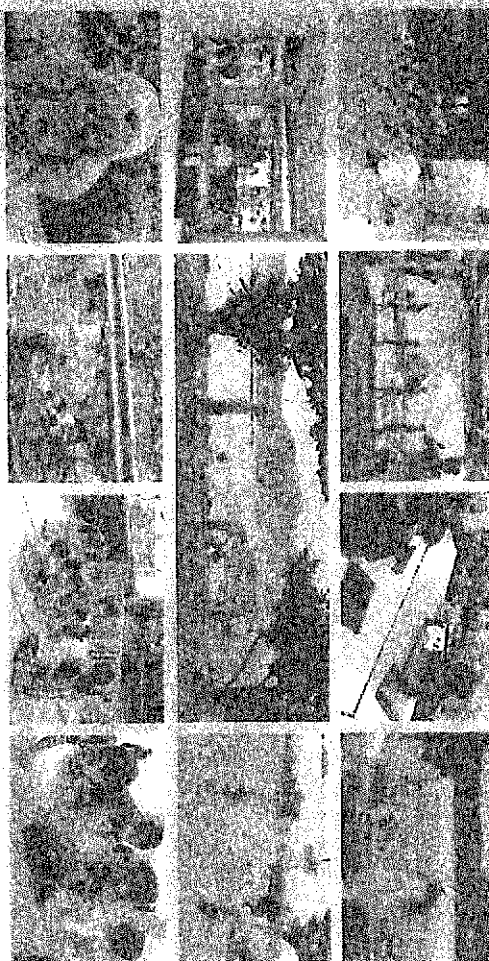
第6歳までの児童のいる家庭が対象で、児童ひとりに対し1ヶ月5千円を年3回（7月、11月、3月）に分けて支給します。

こども医療費給付

村内の高校生以下が対象で、各施設は保険法の保険料負担額を全額助成。（保護者の窓口負担なし）

不妊治療等助成

医師による不妊・不育治療を行っている夫婦を対象に、治療を受けるのに必要な治療費及び交通費等の一部を助成します。



任意予断援種

定期健診や、おたふくかぜ（3歳〜7歳未満まで）、髄膜炎（原則中学3年生）は自己負担なし。

大和村ファミリーサポート

センター利用等助成

奈良市ファミリーサポートセンターを利用する、村内の利用会員が支払う協力員への旅費を、全額助成します。

保育所の保育料

保育所の保育料は無料。0〜満2歳の子どもが通う保育所は、給食費とおやつ代を含め月3,000円。2歳以上の子どもが通う保育所はおやつ代が月1,500円です。

ひとり親家庭医療費助成

ひとり親家庭や、父母のない児童の家庭などが対象。児童と親が受診した際に支払った保険分負担額を全額助成します。

やまとつながるごはん事業

長期休業中の昼食を提供し、保護者の負担軽減を図るとともに、子どもの孤食を防ぎ、異年齢交流を奨励します。（年5回）

学童保育

小学生対象で平日は放課後〜18時、夏休み等の長期休みは8時〜18時。費用は月2〜3,000円です。

大和っ子スクール

心豊かでたくましい大和っ子の育成を目的に、スポーツ体験やタカガドリなど郷土の自然や文化に積極的に触れる体験活動を行っています。

オンライン学習塾

塾通いの費用や保護者の送迎の負担を減らすために、中学生を対象とした村営のインターネット学習塾があります。費用は無料

修学旅行費補助

村内の学校に通学する小・中学生の保護者に対し、修学旅行費の8割を補助します。

子ども会

各集落に子ども会があり、異年齢交流の中で体験活動ができます。豊年祭では子どもたちによる余興もあります。



子育てサロン ママパピカフェ

助産師さんへのお悩み相談や、赤ちゃんの成長を促すワークショップなど内容は様々。会場には赤ちゃん用の体置枕や授乳スベースがあり、様々な遊び道具もあります。保護者の飲み物とお菓子をご用意しています。



身近なお医者さん 大和診療所

レントゲン撮影、腹部エコーなどの設備があります。予約不要。診察：平日 8:30〜17:15 ※急患は随時受付 歯科外来もあります



出産祝い金 直近3年分（R4～R6）実績

令和4年

実績：1,700,000円

内訳：第1子1人・第2子0人・第3子以降3人
30 20 50

令和5年

実績：1,700,000円

内訳：第1子3人・第2子2人・第3子以降1人

令和6年

実績：3,900,000円

内訳：第1子3人・第2子1人・第3子以降6人

育児助成金直近3年分（R4～R6）実績

／令和4年実績：4,065,000円

内訳 7月 1,355,000円（72人47世帯）

11月 1,360,000円（70人46世帯）

3月 1,350,000円（70人48世帯）

／令和5年実績：3,830,000円

内訳 7月 1,270,000円（65人45世帯）

11月 1,305,000円（68人48世帯）

3月 1,255,000円（67人49世帯）

／令和6年実績：3,420,000円

内訳 7月 1,165,000円（59人44世帯）

11月 1,145,000円（63人43世帯）

3月 1,110,000円（56人40世帯）

大和村：人口動向

区分	平成17年(国調)		平成22年(国調)		平成27年(国調)		令和2年(国調)		令和7年(7月末)	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	2,013	△	1,765	△12.3%	1,530	△13.3%	1,364	△10.8%	1,361	△0.2%
0歳～14歳	300		222	△26.0%	175	△21.2%	141	△19.4%	152	7.8%
15歳～64歳	1,053		903	△14.2%	760	△15.8%	636	△16.3%	623	△2.0%
うち15歳～29歳 (a)	213		171	△19.7%	123	△28.1%	109	△11.4%	103	△5.5%
65歳以上(b)	660		640	△3.0%	595	△7.0%	586	△1.5%	586	△0.0%
(a)/総数 若年者比率	10.60%	△	9.70%	△	8.00%	△	8.00%	△	7.60%	△
(b)/総数 高齢者比率	32.80%		36.30%		38.90%		43.00%		43.10%	

行政視察（会派）レポート

2025 年 9 月 2 日

日時： 2025 年 8 月 26 日（火） 10:00～11:30

視察先： 鹿児島県大島郡宇検村役場 担当課

宇検村参加者： 元山公知村長（最初の懇談のみ）、 喜島孝行議長

海原隆家議員、吉永常明議員、杉浦治俊議員、川上真理議員、保枝力

人議会事務局局長、担当課職員

公明参加者： 真鍋修司 王城良二 ↓金子房 東浦小波子
藤野祐利 田中俊幸

報告者： 田中 俊幸
田中俊幸

<調査内容>

「親子山村留学」について

鹿児島県大島郡宇検村は、人口 1, 6 8 5 人（2 0 2 0 年 6 月時点）

で 1 4 集落で構成されている奄美大島南西部の村である。

宇検村としては、少子化に伴う地域の子どもの減少と学校存続の危機への解決策の一つとして、平成22年4月から阿室校区、平成23年4月から名柄校区において、親子山村留学を開始。

その2校区になった経緯は、地域からの要望があり、本来は全校区で行いたい事業ではあるが、地域の理解や応援がないと継続が難しい事業のため、2校区になったとのこと。

親子山村留学の特徴としては、

- ① 親子一緒に宇検村に居住をすること。
- ② 1年間や2年間などの期間限定は対象外で、子どもさんが中学校卒業までできるだけ長く宇検村に居住すること。

居住された場合の経済的支援については、子ども1人につき

〇月30,000円の助成金を支給。

〇家賃助成も半額を助成（1年間のみ上限7,500円）

〇受入の校区には、校区活性化対策委員会に補助金20万円支給。

令和7年度時点の留学受入実績としては、

阿室校区 小3人 中2人 計5人の4世帯

名柄校区 小4人 中1人 計5人の3世帯

平成22年からの受入実績述べ人数では

阿室校区 受入延べ人数 35人(21世帯)

うち、中学校卒業までの在籍数 17人(10世帯)

名柄校区 受入延べ人数 30人(19世帯)

うち、中学校卒業までの在籍数 10人(10世帯)

<感想>

宇検村としては少子化に伴う学校廃校の危機に瀕して、なんとか存続させるために、助成金もつけて実施をしており、インターネットによる募集も行い、九州のみならず関西からも問い合わせや受入実績がある。

都市部で不登校や発達特性のある子どもや親御さんからも問い合わせがあり、離島である奄美に来ることにより、学校に通えるようになったとのエピソードもあり、大変素晴らしい取り組みと感じました。課題としては、山村留学して卒業後にそのまま宇検村に居住される人数は1割程度とのことで、少しでも増やしていきたいとのことでした。

本市においても今年から AMA フレンドシップ事業がスタートし、本市中学生代表 3 4 名が奄美大島に 3 泊 4 日での訪問体験がスタートし、世界自然遺産の大自然に触れる中で、都市部では体験できない貴重な体験ができることが大変有意義であると、あらためて実感いたしました。

本市としては、本市の子ども達が少しでも世界自然遺産の素晴らしい環境に触れる中で、感受性を培い、人間関係や自然を大切にできる教育の一環として、宇検村や奄美大島群島と更なる交流を実施していけるような推進を、今後も行っていきたいと思います。